

令和5年10月

関西広域連合議会第30回

産業環境常任委員会会議録

令和5年10月関西広域連合議会第30回産業環境常任委員会会議録 目次

令和5年10月7日

1	開催日時・場所	1
2	議 題	1
3	出席委員	1
4	欠席委員	1
5	事務局出席職員職氏名	1
6	説明のため出席した者の職氏名	2
7	会 議 概 要	3

1 開催日時・場所

開会日時 令和5年10月7日(土)

開催場所 堺市議会 第1・第2委員会室(堺市役所 本館12階)

開会時間 午後1時30分

閉会時間 午後3時29分

2 議 題

調査事件

(1) 広域産業振興について

- ・広域産業振興の推進について
- ・関西広域産業ビジョンの改訂について

(2) 広域農林水産業振興について

- ・広域農林水産業振興の推進について
 - ・関西広域農林水産ビジョンの改訂について
-

3 出席議員 (17名)

4番 九里 学

24番 北 浜 みどり

6番 小原 舞

25番 北 川 泰 寿

7番 小鍛治 義 広

26番 壬 生 潤

9番 菅 谷 浩 平

28番 松 木 秀一郎

13番 中 野 稔 子

29番 芦 高 清 友

15番 八重樫 善 幸

31番 川 畑 哲 哉

16番 黒 田 まりこ

33番 富 安 民 浩

18番 田 辺 信 広

39番 岡 本 富 治

21番 吉 岡 たけし

4 欠 席 委 員 (3名)

2番 桑 野 仁

35番 内 田 博 長

20番 三 宅 達 也

5 事務局出席職員職氏名

議会事務局長

新 居 徹 也

議会事務局次長兼議事調査課長

山 口 隆 壮

議会事務局総務課長

松 浦 幸 浩

6 説明のため出席した者の職氏名

(1) 広域産業振興

広域連合委員(広域産業振興副担当)	永 藤 英 機
広域連合副委員(広域産業振興担当)	渡 邊 繁 樹
本部事務局長	土 井 典
広域産業振興局長	中 原 淳 太
広域産業振興局産業振興企画課長	池 永 裕 典
広域産業振興局経済交流促進課長兼スタートアップ支援課長	中 谷 敬
広域産業振興局グリーン産業振興課長	多 田 一 也
広域産業振興局ライフサイエンス産業振興課長	柿 本 博 之
広域産業振興局ものづくり支援課長	柏 村 幸一郎
広域産業振興局参事(大阪市)	河 渕 秀 樹
広域産業振興局参事(堺市)	橋 本 隆 之
広域産業振興局参与(滋賀県)	中 村 達 也
広域産業振興局参与(京都府)	玉 木 利 忠
広域産業振興局参与(兵庫県)	小 林 拓 哉
広域産業振興局参与(和歌山県)	貴 志 幸 生
広域産業振興局参与(鳥取県)	佐々木 徹
広域産業振興局参与(徳島県)	東 條 洋 士
広域産業振興局参与(京都市)	松 下 重 志

(2) 広域農林水産業振興

本部事務局長	土 井 典
広域産業振興局農林水産部長	山 本 佳 之
広域産業振興局農林水産部次長	段 子 和 己
広域産業振興局農林水産部総務企画課長	川 尾 尚 史
広域産業振興局農林水産部農政課長	岩 倉 幸 信
広域産業振興局農林水産部販売促進課長	山 田 幸太郎
広域産業振興局農林水産部就農促進課長	川 村 実
広域産業振興局農林水産部林政課長	原 賢一郎
広域産業振興局農林水産部水産課長	横 畑 和 幸
広域産業振興局農林水産部参与(京都府)	荻 安 彦
広域産業振興局農林水産部参与(大阪府)	大 武 基
広域産業振興局農林水産部参与(兵庫県)	塩 谷 嘉 宏
広域産業振興局農林水産部参与(徳島県)	松 本 修 一
広域産業振興局農林水産部参与(京都市)	宿 院 惠
広域産業振興局農林水産部参与(大阪市)	河 渕 秀 樹
広域産業振興局農林水産部参与(堺市)	小 走 伸 吾
広域産業振興局農林水産部参与(神戸市)	椿 野 智 弘

7 会議概要

午後 1 時30分開会

○委員長（小鍛治義広） それでは、これより関西広域連合議会産業環境常任委員会を開催いたします。

本日は、常任委員会委員選出後、最初の委員会となりますので、一言ご挨拶を申し上げます。

産業環境常任委員会の委員長を拝命いたしました京都府議会の小鍛治義広と申します。どうかよろしく願いいたします。

ここ堺市は、1600年代、東洋のベニスと呼ばれ、世界交易の終着地としての役割を持ち、この港から日本が取り入れた文化、鉄砲、航海技術、宗教などは、歴史の転換点を生み出すほどの影響力を持ったと聞き及んでおります。この意義深い堺市におきまして、本日、関西広域連合議会の産業環境常任委員会を開催できますことを本当に心喜ばしく思います。どうか皆様、よろしく願いいたします。

それでは、続きまして副委員長をご紹介します。

壬生 潤副委員長でございます。

○副委員長（壬生 潤） 産業環境常任委員会の副委員長を拝命いたしました神戸市会の壬生 潤でございます。

委員長を補佐し、円滑な委員会の運営に努めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

○委員長（小鍛治義広） 本日、桑野委員、富安委員、そして三宅委員は、欠席でございます。

なお、理事者側の出席者につきましては、お手元に名簿を配付しておりますので、ご覧おき願います。

それでは議事に入ります。

本日の調査事件は、広域産業振興の推進及び関西広域産業ビジョンの改訂、広域農林水産業振興の推進及び関西広域農林水産業ビジョンの改訂についての4件であります。

本日は、二部制とし、まず、広域産業振興の推進について及び関西広域産業ビジョンの改訂についてを議題とし、広域産業振興局から説明聴取の後、質疑を行います。

次に、理事者を入れ替え、広域農林水産業振興の推進について及び関西広域農林水産業ビジョンの改訂についてを議題とし、広域農林水産部から説明聴取後、質疑を行います。

時間は、それぞれ1時間程度ずつで、全体として2時間程度を見込んでいます。終了予定時間は、15時30分を目途としたいと思います。

本日は、調査事件が4件あることから、質疑時間をしっかり確保できるよう運営してまいりますので、どうかよろしく願いいたします。

委員の皆様には、円滑な議事進行にご協力いただきますよう、重ねてお願いを申し上げます。

なお、発言の際は、先にお名前をおっしゃってからお手元のマイクスイッチを押して発言されるようお願いいたします。

それでは、広域産業振興の推進についてを議題といたします。

まず初めに、本日出席の連合委員からご挨拶をいただきたいと思います。

最初に、堺市の永藤委員からご挨拶をいただきます。

永藤委員。

○広域連合委員（広域産業振興副担当）（永藤英機） 皆さん、こんにちは。堺市長の永藤です。

関西広域連合議会産業環境常任委員会の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、日頃から関西広域連合の産業振興にご尽力いただきまして、ありがとうございます。また、本日は、皆様が堺市にお越しただけましたことを市長として、心より歓迎をいたします。

関西広域連合では、2040年を見据えた関西広域産業ビジョンの発展のため、関西の強みや広域的なスケールメリットを生かして、ライフサイエンス分野、そしてグリーン分野のイノベーション構築に向けて取組を進めています。

今年、昨年11月には、関西広域連合域内の工業系公設試験研究機関等、多様な機関が連携をしまして、関西広域産業共創プラットフォームを立ち上げたところ、当初の想定を上回る相談が寄せられまして、新たな取組が着実に進んでいることを感じております。

堺市におきましては、様々な交通の結節点でありまして、産業支援機関や大学が集まる中百舌鳥エリアで、産学府、産官学連携による新規事業創出など、イノベーション創出拠点に向けて、積極的に取組を進めています。また、臨海部では、マザー工場や研究開発拠点の誘致などで、さらなる産業集積を図っています。

そして今年、今年、10月の28日、29日には、G7大阪・堺貿易大臣会合が開催され、また、2025年には、大阪・関西万博が開催をされる予定となっております、これらの機会を地域の魅力発信や地域経済活性化の関西の発展・成長につなげたいと考えております。

本日は、議事といたしまして、広域産業振興の推進状況と関西広域産業ビジョン改訂案について、ご説明をいたします。

改訂案は、2019年の前回改訂以降、新型コロナウイルス感染症の拡大やロシアによるウクライナ侵攻などにより、世界的に大きく変化した社会経済情勢も踏まえながら、成長し続ける関西の実現に向けてアプローチを示すことを中心に作成をしております。今後も関西広域連合を構成する各府県市と連携を密にしながら、関西経済の飛躍のために挑戦をいたしますので、委員の皆様には力強いご協力をいただきますようお願いを申し上げます。

それでは、本日どうぞよろしく願いいたします。

○委員長（小鍛治義広） ありがとうございます。

次に、大阪府の渡邊副委員をお願いをいたします。

渡邊副委員。

○広域連合副委員（広域産業振興担当）（渡邊繁樹） 関西広域連合におきまして、広域産業振興の担当の副委員をしております大阪府の渡邊でございます。

本日は、産業環境常任委員会の皆様におかれましては、各府県市議会の議会活動に加えまして、本日は、このような形でお休みのところ、関西全体のための議会の活動、お越しいただきまして、また、関西の全体のためにご尽力いただいておりますことに、心よりお

礼を申し上げます。

本日の議題といたしましては、この関西広域連合におきまして、策定をしております関西広域産業ビジョン、これはもともと発足当初の頃、2012年の3月に産学官が協力いたしまして、2040年度の目指す将来像とその実現の方向性を示すものとして策定をしておりますけれども、こちらに基づきまして、関西広域連合の各施策を行っております。

本日は、この広域産業振興局が主体となって実施しております令和5年度の取組につきまして、ご報告を申し上げます。

もう一つ、加えまして、この本ビジョン、先ほど永藤市長からもお話ございましたけれども、この2019年の3月に一度改訂をしております。その後、これ何年に一度見直しを行うということは決まっておりますけれども、その後、様々な情勢の変化、非常に大きな変化があったということを踏まえまして、現在、この広域産業ビジョンの改訂作業を行っております。

また、併せて、この改訂作業の中で、開催まで550日余りになりました2025年大阪・関西万博のインパクトをしっかりと関西の産業振興に生かすということで、この中身に取り込んでいく、そのためのアップデートを行っているとこのところでありまして、本日は、改訂の骨子案につきまして、ご報告をさせていただこうと考えております。

今後とも委員の皆様のご理解・ご協力を賜りながら、取組の充実を図ってまいりたいと考えておりますので、本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（小鍛冶義広） ありがとうございます。

それでは、広域産業振興局から、広域産業振興の推進についてご説明をお願いいたします。

中原広域産業局長。

○広域産業振興局長（中原淳太） 改めまして、広域産業振興局長の中原と申します。本日は、よろしくお願いいたします。

それでは、お手元資料右肩、資料1と記載しております令和5年度広域産業振興の取組の資料をご覧ください。

1枚おめくりいただきまして、右下ページナンバー1をご覧ください。先ほど来、ご説明のありました関西広域産業ビジョンの全体の概念図を示させていただいております。

関西が目指す将来像といたしましては、2040年度をターゲットといたしまして大きく二つ、「世界の中で輝き、日本の未来を牽引する関西」と「多様な人々が活躍・共生できる関西」というものを標榜しております。それを具体的にどういった形で実現度をはかるかというところで、数値目標といたしましては、その下に書いております関西の広域経済圏、これは関西広域連合に連携団体の福井県、三重県を加えました広域経済圏での、いわゆるGRPの国内シェアというものを25%にするということを目指しております。

これらを実現するために、下に書いております戦略を立てておりまして、これは前回の改訂時の平成31年3月以降の5年後を大体見据えた形として取り組んでおります。戦略は大きく3つございまして、記載のとおり、1つ目が、関西の優位性を活かしたイノベーション創出環境・機能の強化、2つ目が、高付加価値化による中堅・中小企業等の成長支援、3つ目が、個性豊かな地域の魅力を活かした地域経済の活性化、それと下に星印で書いて

おります、それら戦略の基盤となります関西を支える人材の確保・育成という、これらを柱といたしまして取組を進めているところでございます。

次に、2ページから4ページにつきましては、令和5年度の広域連合の広域産業振興局の予算事業を掲げて、一覧表でまとめております。

2ページの右肩に書いてありますとおり、予算額は、おおむね5,600万円でございます。それでは、主な事業につきまして、順に説明申し上げます。

資料5ページをご覧ください。関西スタートアップ・エコシステムの推進でございます。

広域連合といたしましては、関西のスタートアップ・エコシステムの魅力、ポテンシャルを国内外に発信いたしまして、人・モノ・投資等と呼び込み、成長につなげていくために、令和3年度に策定いたしました関西スタートアップ・エコシステム情報発信事業 情報発信戦略に基づきまして、あらゆる活動のベースとなります認知度向上に取り組んでおります。域内のスタートアップ情報を収集し、国内最大級のスタートアップデータベースに登録することを通じまして、投資家、大手企業や研究機関の認知度向上を目指しておるところでございます。また、KANSAI Startup Nightなどの継続的なイベント開催を通じた情報発信も行っておるところでございます。

次に、6ページ、ライフサイエンス分野におけるイノベーション創出に向けてでございます。

こちらは、関西のポテンシャルを発信・強化する取組といたしまして、毎年秋、今年度でいきますと来週なんですけども、横浜で開催されます世界で最も歴史が深く、アジア最大級のバイオテクノロジー展でありますBioJapanにおきまして、関西広域連合といたしましてセミナーを開催します。

BioJapanにつきましては、昨年度は海外35の国・地域から400を超える企業が参加しておりまして、高い需要効果が見込まれると思っております。このBioJapanにおきましては、併せまして、域内構成府県市からの出展企業のその出展支援と、それをビジネスマッチングを支援しているところでございます。

次に、1ページ飛ばさせていただきます、8ページをご覧ください。グリーン分野におけるイノベーション創出に向けてでございます。

関西におきましては、ライフサイエンスと双璧をなすポテンシャルでございますグリーン分野につきまして、水素・燃料電池、乾電池等のカーボンニュートラルに資する技術をテーマといたしまして、域内の大学・試験研究機関等の研究者によります発表と実用化を目指す最新の研究成果の紹介を通じまして、マッチング促進を目指しております。12月にフォーラムを開催する予定としております。

続きまして、9ページでございます。新たな分野でのイノベーションの創出に向けた環境整備といたしましては、域内の10の工業系試験研究機関の連携を土台に、大学など関西の強みを生かしまして、多様な企業ニーズに域内のリソースを最適化する形で支援をしていくということで立ち上げました関西広域産業共創プラットフォームの事業に取り組んでおります。

こちらは、先ほど市長からもご説明ありましたように、想定を上回るスタートダッシュということでかなりの実績を今上げているところでございますが、相談は来ておりますけ

ども、なかなかやはりイノベーションを起こすには時間がかかるもので、コーディネーターを含めまして、丁寧に今対応して、1つ1つ物にできるかというところについて、関係者で協議・連携を深めているところでございます。

続きまして、10ページでございます。SDGs達成に取り組む企業への支援です。

石油由来のプラスチックに代わります素材や製品開発に向けた情報提供のほか、研究開発や新製品の販路会拡大等について支援を行っております。今年度は、9月にSDGs対応技術展2023を開催しました。

続きまして、11ページでございます。地域魅力の発信・マーケットの拡大支援でございます。

関西の優れた製品などのプロモーションを通じまして、関西産業の魅力を発信する取組でございます。国内では、12月に、10月中旬から約1月の間、首都圏におきまして、海外におきましては、国内に先立ちまして一足先に、この10月から来年の2月までの期間にかけまして、アメリカ・ロサンゼルスにおきましてプロモーションを展開いたします。

海外のプロモーションにつきましては、今年度から新たな事業スキームで実施するものがございます。おおむね3年程度の継続というものを視野に、毎年度ブラッシュアップを図っていきたいと考えております。

続きまして、1つ飛びまして、13ページでございます。人材の確保・育成施策の推進につきましては、目下大きな経営課題となっております人材の確保をテーマに、域内の中小企業向けのセミナーを開催する予定としております。

また、その下、ページの一番下にありますが、セミナーといたしまして、社会経済情勢等の変化を踏まえまして、また、企業ニーズというものも踏まえまして、柔軟にいろんなテーマでセミナーを開催することとしております。今年は8月に、DXやChatGPT等をテーマといたしましたセミナーを開催したところでございます。

最後に、14ページ、15ページでございますが、関西産業振興の取組に係る評価・検証とビジョンの改訂についてまとめております。

学識経験者や経済団体の役員等から助言等を賜りながら、ビジョンの実現に向けた取組の評価・検証を行っております。

また、後ほど説明させていただきますビジョンの改訂に向けた検討も進めてるところでございます。

以上が、令和5年度の広域産業局の取組の主なものでございます。どうぞよろしく願います。

○委員長（小鍛治義広） ありがとうございます。

それでは、質疑に移ります。ご発言があれば、挙手願います。どなたかございませんか。川畑委員。

○川畑委員 12ページなんですけれども、海外ビジネスサポートデスクの共同利用とあるんですけれども、これタイ、ベトナム、インドネシア、インド、ミャンマー、中国、台湾なんですけど、それぞれどの構成府県市が拠点を、どんな拠点を持たれてるんでしょうか。教えてください。

○委員長（小鍛治義広） 中谷経済交流促進課長。

○広域産業振興局経済交流促進課長兼スタートアップ支援課長（中谷 敬） ご質問ありがとうございます。

構成府県市で共同利用が可能な海外ビジネスサポートデスクを持っております。現在、7か所ございまして、滋賀県のビジネスサポートデスクが台湾、それから京都府のサポートデスクが中国・上海市、大阪府のビジネスサポートデスクがインドチェンナイ、タイのバンコク、ベトナムのハノイホーチミン、ミャンマーのヤンゴン、和歌山のデスクがタイのバンコク、このサポートデスクをそれぞれで共同利用、相互利用が可能ということで運営しております。

○委員長（小鍛治義広） 川畑委員。

○川畑委員 ありがとうございます。それは理解いたしました。

あと9ページなんですけれども、ご説明いただきました関西広域産業共創プラットフォーム、ぐいぐい隆盛を誇ってきているということなんですけれども、この目標、本プラットフォームの利用件数100件以上と本年度掲げられているんですけど、これは多いか少ないかちょっとよく分からなくて、これまではどんな活用、利用件数状況だったんでしょうか。

○委員長（小鍛治義広） 柏村ものづくり支援課長。

○広域産業振興局ものづくり支援課長（柏村幸一郎） お答えさせていただきます。

本事業、昨年11月にスタートいたしまして、まだ今これから実績を積んでいる段階でございまして、それまでは、かんさいラボサーチという、ネット上でご相談をお受けして、それを使えるような機器とか、それをお持ちの公設試をご紹介するというようなことをしておりました。それが、その当時で大体、月4、5件ぐらいだったと思います。現在、実際にリアル版として人を配置いたしまして、今で大体11月からで今73件とか、そういった形で少し、これからどんどん積み重ねていかなければいけないと思うんですけれども、我々の想定したところよりは、かなりご相談をいただいているのかなというふうに考えてございます。

○委員長（小鍛治義広） 川畑委員。

○川畑委員 ありがとうございます。どうぞ頑張ってください。

あと来週、産業技術支援フェアが行われるということですので、楽しみにしているところなんですけれども、それはそれとしまして、これ例えばの話なんですけど、私の地元でも少量生産を行って、工業製品なんかの製造を行っている会社がございまして、よくよくお聞きしてみますと、滋賀県とか京都とか神戸のほうへ配達というか、トラックがほぼ毎日とか週に何回と運ばれているようです。

一方で、農産物、農産物は和歌山はいろいろ自負を持っている商品があるんですけれども、京都、滋賀へ送るには、送料がやっぱりかかってしまって、実際、現地へ行ったとき、なかなか現地のほうに勝てないというようなことがあるんですが、私も大航海時代というシミュレーションゲーム大変好きでやってきたんですけども、販路の拡大、確立されていない場所へ送るほど、やっぱり値打ちも上がって高く売れるというのが交易・貿易の基本なのかなというふうに思うんですね。

そうすると現在、和歌山からの農産物の販路が確立されていないところ、でもそこには

工業製品の販路が確立されている。そのトラックには、大型の機器なんかを置くと、トラックの荷台のところに隙間がたくさん空いて、そこへ、それこそ籠を幾つか積み込むという事は十分可能だという話で、見積りを取ってみると、積み下ろしに必要な手数料さえ頂いたら、工業製品と一緒に農産物も運びますよというようなお話がございまして、今そのマッチングを進めているところなんです。今度は逆に、向こうへ持っていったら、荷台が空になりますから、滋賀とか京都から同じようにその物を積み込んで、和歌山なんかへ持ってきていただくと、和歌山ではあまり手に入らないものが、それなりの値段で売れると。これ関西広域連合域内で展開することができれば、地産地消ならぬ、域産域消みたいなものが、工業製品、農業製品、もうそのジャンルを問わずできるんじゃないのかなというふうに今思っているところなんです。農業だと、その農業の中で販路をどうするかって考えられてる方多いのかなと思うんですけど、これをミックスしてみたらものすごい販路網が出来上がったりするのかと、昨日眠れなかったので考えたりしたんですけども。

そんな際に、関西広域連合として、こういう販路を探してますとか相談する窓口というのは、こちらでよろしいんですか。ちょっと説明が長くなってしまって恐縮なんです。例えば京都なり滋賀なりの、ここ辺りにポイントはあって下ろすんですけども、この辺からもし拾って、和歌山で販路を拡大したいという企業さんがあればお話をお伺いしたいんです、みたいな相談事があったときは、こちらにおつなぎする感じでいいのでしょうか。

○委員長（小鍛治義広） 中原局長。

○広域産業振興局長（中原淳太） 思いつきみたいな答弁になって申し訳ないんですけども、1つは、まず関西広域連合のありように関わってくると思っております。関西広域連合は、基本的には独立した個別の自治体でございますので、各構成府県市さんでやられていないもの、あるいは構成府県市さんでやるよりもメリットがあるものを広域連合として一括してやるという、そういった役割分担がございます。ですので、構成府県市さんがやられる、あるいはその連携の中で民間事業者さんとやられるということについて、直接的に我々が主担当として事務をやることはないと思っております。

ただ、広域でやる上でのいろんな調整事は、お話を聞きながら関係セクションとコミュニケーションをとることができるかとは思っております。

あとは、技術的な話として、ちょっと素人目線で申し訳ないんですけども、農作物とかそういったものの品質管理でありますとかといったところで、全てのものを同じようにできるような場合に限らず、やっぱりデリケートなものなんかはおありなのかと思っておりますので、できることがあるならば、当然今そういったマッチングをやってらっしゃることですので、そういったこともお聞かせ願いながら、何ができるかというのは検討したいと思っております。ありがとうございます。

○委員長（小鍛治義広） 川畑委員。

○川畑委員 ありがとうございます。またその際は、どうぞよろしく願いいたします。

以上です。ありがとうございます。

○委員長（小鍛治義広） 他にご発言はございませんか。よろしいでしょうか。

中谷課長。

○広域産業振興局経済交流促進課長兼スタートアップ支援課長（中谷 敬） 先ほどのご説明で、1か所抜けておりましたので、追加の説明させていただきます。申し訳ございません。

ビジネスサポートデスクで、インドネシア・ジャカルタ、これ大阪府が設置してるものなんですけども、これが抜けておりました。おわびさせていただきます。申し訳ございません。

○委員長（小鍛治義広） ありがとうございます。

皆さん、他にご発言はございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、ご発言も尽きたようでありますので、本件については、これで終わらせていただきます。

次に、関西広域産業ビジョンの改訂についてを議題といたします。

それでは、関西広域産業ビジョンの改訂について、広域産業振興局から説明をお願いいたします。

中原局長。

○広域産業振興局長（中原淳太） それでは、続きまして資料の2-1、2-2、2-3でお手元配付しております産業ビジョンの改訂の骨子案につきまして、ご説明申し上げます。

まず、2-1でございます。こちらに全体概要をまとめておまして、今回の改訂では、そこに記載します4つのポイントを特に重点的に議論しながら進めているところでございます。後ほど、具体的に資料の中身でご説明をいたします。

2番目、今後のスケジュールの予定でございますが、本日ご説明をさせていただきまして、皆さんからのご審議・ご協議いただきました後に、本骨子案につきましては、11月から約1月ほどパブリックコメント手続に入らせていただきまして、その後、各方々と最終の調整をさせていただき、最終案をまとめた上で、年を明けました1月、2月、3月で議会所定の委員会、議会での手続を経て、成案化させていただきたいと考えております。

参考に、先ほど資料にもつけておりますが、委員会の委員さんの名簿をつけさせていただいております。

それでは、資料2-2、2-3について説明をさせていただきます。資料の2-2は横に置きながら、2-3の本体のほうでご説明をさせていただければと思います。

1ページめくっていただきまして、はじめにというところで、今回の改訂の課題意識につきまして、書かせていただいております。はじめにつきましては、最終的にまだ成案化するまでに、まだ日にちがございます。その中でもいろんなことが起こってくると思っておりますので、そういった点も踏まえまして、最終的にブラッシュアップしたバージョンにしたいと思っておりますけども、根っこの課題意識といたしましては、やはりこの間の社会情勢の変化をきっちり見据えて、ビジョン2040年度をターゲットイヤーとしておりますけども、どういった軌道修正が必要かどうかという点について、取り組んでまいりたいということでございます。

具体的にですけども、資料の2ページでございます。そういった課題意識の下で、ではじゃあ現状の社会情勢はどうか、それは今後どういった点に取り組んでいくべきなの

かという点を、課題につきましては挙げるときりがありませんけれども、大きく今回は4つのメガトレンドで整理をさせていただきました。

資料の作りといたしましては、左側からグローバルな動き、その右の囲み、白囲みのところが国内の動きと、それらを踏まえて関西経済の取組といたしまして、こういったマインドセットで取り組んでいくのかというポイントを整理した取組となっております。

メガトレンドの4つのうち1つですけれども、気候変動、地球環境問題につきましては、これは大きく言いますとグローバル、国内の動き、ともに同じ方向を向いているものでございまして、中でも関西の優位性が発揮できる場所というところで、場合によっては関西が先行していく、日本が先行していく分野と考えております。

2つ目の社会構造（人口動態）のところですが、これは、同じく人口動態とはいっても、グローバルの動きでいいますと、人口増加の傾向があるというところと都市への集中とか、そういったグローバルならではの課題と。

一方、国内に目を転じますと、逆に人口減少、特に生産年齢人口の減少、少子高齢化というところで、こういった形でビジネスを展開するのか。あるいは人材の確保に向けてどういった取組そうってくるかと、そういった課題意識で、グローバルと国内においては、若干方向性が違うものでございます。

3つ目の技術革新、DX、生産性は、大きな意味では同じ方向性を向いておりますけれども、これは世界取組の中で、日本はどちらかというところ、まだ後塵を拝している分野というふうに言えるのかというところで、その点で切り分けをして、整理をさせていただいております。

4つ目は、不確実性ということで、感染症であるとかウクライナ情勢等によります地政学的リスクというところで、これはなかなか先が見通せない分野というところで整理をさせていただいて、それらを踏まえた形でどういったポイントを整理するかというのが、右に囲みで書かせてもらってます。この囲みの中の基本姿勢というのをベースに、次の今後の展開というものを整理してございます。

めくっていただきまして、3ページ目でございます。めざす将来像・目標につきましては、先ほどビジョンの概念図をお示しさせていただきました。

基本的には2つの将来像と数値目標という立てつけは、変更ございません。といいますのも、先ほど来、申し上げてますとおり、2040年をターゲットとしておりますので、大きな意味では、方向性はそのまま変えないというところでございます。

ただし、いろんなこの変化を踏まえた形で、取組の内容につきましては、若干ポイントを記載させていただいております。特に1つ目の将来像のところにつきましては、2つ目のパラグラフにおきまして、やはり関西万博というものをきちんとビジョンの中で向き合っ取り組んでいくというところを書かせていただいております。

それと数値目標の点ですけれども、そこにも書かせていただいておりますけれども、昨今の経済情勢、いろんな乱高下がございまして、将来を見通す部分がなかなか難しいというのが正直でございます。一時期は、やはり成長のトレンドをかなり厳しいのではないかといいところもありまして、数値目標についても再検討すべきではないかというような意見も委員の中からございましたが、検討を重ねまして、やはり2025年の万博というものを関西でき

ちんと生かして取り組んで、成長につなげていくというところの気概、そのメッセージというのは大切にしていってほしいというところを最重点といたしまして、国内シェアの25%を堅持していくというところで目標設定をさせていただいております。

ただし、GRPの額面につきましては、全体のパイ縮小しております、前回の改訂時では180兆円としておりますけれども、今回、全体、国のほうでの全体推計も下方修正に連動いたしまして、同じく25%でありますけれども、150兆円という形で修正をさせていただいております。

続きまして、4ページでございます。では、その将来像と目標をどういう形で実現していくのかというところの手だて、アプローチというものを整理した全体像でございます。

これは、目指す姿を実現に向けたその中で、それを目指すに当たってチャレンジしていく、関西チャレンジというものを3点設定をさせていただいております。

上から順番にいきますと、新産業の創出・確立というものは、関西を根っことします強みの部分をきっちり生かしながら、新しい世の中で課題となっている部分にしっかりと貢献していく産業というものを創り上げていくという取組でございます。

2つ目の産業転換と進化は、現状の産業というものを現状のままに終わらせず、右肩上がりの持続的な成長というものにつなげていくというところで、高付加価値化を目指していくという取組でございます。

3点目は、それらを支える好循環をつくっていくと。関西が成長していくためには、そういったチャレンジする環境が必要と。チャレンジする環境に人材を呼び込み、チャレンジをしてもらい、新たなイノベーションを起こすと。そのイノベーションがさらなる魅力となって、また人材を呼び込むと。そういった好循環をつくり上げていくことで強みを脈々と発揮していくと。そういった取組でございます、それらを実現するためにどういったことが必要かというのが、右側に書いてありますキーワード、キーアクションの掛け合わせとっておきまして、それを具体的に次ページ以降で整理しております。

1ページめくっていただきまして、5ページでございます。関西チャレンジ1つ目、強みで貢献ということで世界共通の課題解決に貢献する関西の代名詞となり得る産業の確立ということで、先ほど説明しましたとおり、ここ1つ目が囲みの中が目指す姿で、皆さんと共有していきたい将来像でございます。

下に書いておりますのが、具体的にその手だてをやっていくというアプローチを書いているんですけども、現在は骨子案ということでお示しをさせていただいております、取組アイデアという形で、こういったことに取り組んでいくことで、その目標実現に向けた動きを創り出していけるのではないかとこのところを記載をさせていただいております。これらを今後、具体的に皆様方、関係者様と議論をして、具体的な取組に落とし込んでいくという形になっていくかと考えております。分野でいきますと、新たな分野ということで、まず産業化として確立していない。あるいは今、新たなチャレンジがうごめいてる分野といたしまして、ライフサイエンス、ヘルスケア、バイオテクノロジー、それからグリーンイノベーション、カーボンニュートラル。それらの動きとも交互する形のスタートアップエコシステムということの一つ大きなテーマとして捉えています。

それと、これまでにないもの、新しいチャレンジということで、Bのところに記載させ

てもらってます。これは、万博なんかでも今チャレンジをしております空飛ぶクルマでありますとか、各構成府県市さんにおきます地理的な特性を生かした実験フィールドということでチャレンジャーを呼び込む産業集積を図っている宇宙分野であるとかいうところら辺についても、関西の強みとして、新しい産業を確立させていきたいと考えております。

次に、6ページ、強みを活用ということで、現在においても強みを発揮しておりますけれども、現状維持では、やはりその競争に取り残されてしまうということもありますので、世の中の変化、あるいは多様化するそのニーズにきちんと追いつき、それを先んじて、新しい価値創造をしていくと。そういった産業への転換ということを図っていきたいと考えております。

ですので、そういう意味でいきますと、いわゆる既存事業、既存の企業さんの取組では、そのまま続けていくということではなく、新しいやはりその課題をきちんと捉まえて、自社の強みをいかにそこに適用させていくかと。そうすることで新しい価値を世の中に生み出し、会社、企業としても新しい価値を見つけていくと、強みにしていくと、そういった動きをつくっていききたいと考えております。

めくっていきまして、7ページでございます。先ほど、これも申しましたとおり、成長の好循環をつくるということを狙いとしております。特に人材の面かなり厳しい状況が続いておりますので、これはいろんな意味において、その獲得競争みたいなことになると思うんですけども、人が必要だということで、人を取りに行くというよりは、やはり人に来ていただけるという魅力というものをきちんとつくってない中では定着もしませんし、仮に、その方の次の世代が関西に根づくかといったところもございまして、やはり関西が、そういった環境をつくり上げていって、それを常にアップデートしていくといった、そういった環境をつくっていききたいと考えてございます。

次に、8ページでございます。8ページが、大阪・関西万博のインパクトを活用した成長シナリオということで、いよいよ2025年ということで見通せる範囲ということになりました。ですので、ここは、今はアイデアの検討の視点の例であるとかシナリオ展開の分野案ということを示唆させていただいておりますけれども、今後、年度後半で構成府県市、関西広域連合もそうですし、あるいは経済団体等も含めまして、関西万博の動きと連動する形の具体的な事業をやるとか、そういった動きが具体化してまいりますので、そういった点をきちんとここに落とし込んで、より実効性の高いものという形で共有がしたいと思っております。ですので最終案の段階では、もう少しボリュームアップした形でご提示する予定としてございます。

9ページ目でございます。このビジョンにおきます広域連合におきます機能・役割というものを改めて整理をさせていただいております。ビジョン自体は、関西全体で目指す姿ということですので、先ほどちょっとご説明申し上げましたとおり、関西広域連合の体力で全てを賄えるものでは当然ございません。ですので、関西広域連合がやるからには、その限られた資源をより効果的に発揮できるようにきちんと意識を持ってやっていくというところで、そこに記載の4つのバリューを提供できる取組というものをきちんと意識しながら、事業を構築してまいりたいと考えております。

最後に、10ページには、今回1枚だけ資料としてイメージを添付させていただいております。

ます。

これは、関西のポテンシャルマップという形で今呼ばせていただいておりますけども、今後、関西でいろんな取組をやっていく際に、いわゆるオープンイノベーション的なことの動きを加速させるための1つの資料という意味合いと、もう1つは取組、それぞれ構成府県市さんの独自の取組であるとか強みというものをきちんと世の中に発信していくといった、そういったツールとしてもきちんとこういったイメージ化をして、皆さんに提供して共有したいと考えております。

現在ライフサイエンスヘルスケアのイメージ、まだ作業途中ですけど、こういった形で提示させていただいているほか、グリーンあるいはスタートアップ、伝統産業、地場産業、各府県のその独自色を出せるようなリーディングプロジェクトをつくってまいりたいと考えております。

説明は、以上でございます。よろしく願いいたします。

○委員長（小鍛治義広） ありがとうございます。

それでは、質疑に移ります。ご発言があれば、挙手願います。

田辺委員。

○田辺委員 大阪市会選出の田辺でございます。

ご説明ありがとうございます。ご説明ありがとうございました。

一番最後にありました、これ9ページですかね。ここ非常に重要なところだと思うんですね、左側の特にスケールメリット、シナジー効果というところです。

先ほど川畑委員のご質問ときに局長がまさしくおっしゃられた、構成府県市でできないこと、構成府県市が独自でやるよりもメリットがあるようなことをやっていくのだというご説明で、まさしく本当にそうだと思うんですけども、ただ、このビジョンの最初のほうを見てみますと、確かに一見、相当分析的な外部の環境と内部の強み・弱み、弱みは載ってないかな。そんな形でこういう方向でいくというご説明があつて、先ほどの広域産業振興の取組のこれを見てても、これ従前から本議会のほうでも質疑があつたと思うんですけども、なぜこの事業を広域連合でやるのがメリット、付加価値等々あるのかというのが、なかなかちょっと資料と説明から見えてこない。その辺りはちょっとどのようにお考えか、ご答弁ください。

○委員長（小鍛治義広） 中原局長。

○広域産業振興局長（中原淳太） ありがとうございます。正直ベースでお話しさせてもうていいですか。

○田辺委員 もう正直に行きましょう。

○広域産業振興局長（中原淳太） 私、4月から局長をさせてもらっておりまして、おっしゃるとおり、事業の広域連合がやる必要性というのは正直よく分からないものがあるなと思ってまして、5年度事業を進めながら、6年度事業に向けて、その辺の整理と軌道修正をさせてもらってる最中でございます。

○委員長（小鍛治義広） 田辺委員。

○田辺委員 想像以上に何かストレートなご答弁を頂いたんでびっくりしたんですけどもね。私自身は、正直これから地方分権と、ましてやそれをリードする関西は、道州制

に目指していくべきだと思っておりますので、今、特にその構成の県でされてるような事業をもっと広域でできることはないのかなと。そこに予算と人をつけていただいて、より強力でやっていただきたいという思いは持っています。

ただ、1つ1つの事業を見ても、例えばその先ほどの取組とかスタートアップの支援であったりとか、正直、私、大阪市会から来ておりますので、結構、大阪府市の資料を見てても、そんなに変わりが無いというのが正直なところでして、当然、他の自治体のところの方もいろんなことされてると思うので、このビジョン、これから今骨子案ですから、改訂委員会、学識経験者、経済団体の人たちが集まって、最後パブコメも経て、練り上げて、つくれると思うんですけども。ぜひ、先ほどの一番最後にありました規模の経済、範囲の経済、それでやはりそのシナジー、有機的に結びついていく。

先ほど川畑委員がおっしゃられた質問で、僕、本当にいいご質問だなと思ってまして、まさしくそういった案を関西広域連合の中で受けていく。それが実際に実現できるかどうか、効果があるかどうかは、私はちょっと素人ですから分かりませんが、そういった体制をやっぱりつくっていただきたい。その上で、いやこれはもう、正直言うと構成府県市と広域連合と、ある意味二重行政になってるから、これやらなくていいんじゃないのかという部分も出てくるかもしれないし、いやこれをもっとやっぱり広域連合で、強化していきましょうというものが出てくるかもしれないし、ぜひこの専門委員の方々には、その点をしっかりと見ていただきたいというふうになんか要望したいと思っておりますので、ぜひお伝えください。

○委員長（小鍛治義広） 田辺委員。

○田辺委員 もう一点、この資料に万博について結構書かれてありまして、冒頭の3ページのところに、まずは2025大阪・関西万博の成功に向け関西一丸となって貢献するというような説明と、先ほどその他にもご説明いただきましたけど、実際今、広域連合として、この万博については、どのような役割を果たしておられるのか。それから、貢献すると、これは関西で貢献するというのはどういう意味か、今後についてはどのようにお考えか、お聞かせいただけますか。

○委員長（小鍛治義広） 中原局長。

○広域産業振興局長（中原淳太） 厳密に言いますと、所管外になってしまうので、僭越なことは申し上げられないんですけども、ここで記載してあります意味といたしましては、万博自体はナショナルプロジェクトという位置づけでございますので、地元関西としても成功に貢献するというような、そういう趣旨で書かせていただいております。

広域連合として、全体ちょっと俯瞰できてないんですけど、少なくとも我々産業セクションで万博とどういう関わりをするかといいますと、例えば先ほど事業で説明申し上げましたBioJapan、横浜で開催されます。来場者1万5,000人を超える、世界からも多数来れるということで、そこでは、関西万博のきちんとアピールもしたいという、そのブースのしつらえ、あつらえといったところは工夫をさせていただくと。そういったことはさせていただきます。

○委員長（小鍛治義広） 田辺委員。

○田辺委員 局長、先ほど本当に本音でお話いただいたんで、私もいろいろと万博に

ついて、もう皆さんご存じのとおり、かなり課題、問題点多くなっておりまして、どうなるんだろうというのは、特に大阪の市府民の方も関心高いですし、マスコミでも連日、報道されているところは、ご存じのところかと思えます。

たまたま、私個人的な話ですけれども、もう結構前、1年前か、ちょっと時期ははっきり覚えてないんですけれども、ある知り合いの方から、某領事館から、パビリオンについて日本の建設会社がちょっと受けてくれないんでという相談を聞いたと。僕はその領事館の人から直接聞いてませんが、その知り合いの人から、ちょっと田辺さん何とかならないですかという質問があったんで、大阪市役所というよりも個人的に付き合いのある学生時代の後輩の某ゼネコンの方に、実はこんな話があるんだけど行くと、最近になってやっとこの点は出てきたんですけれども、いや先輩、正直ね、デザインは出てくるんだけど、設計図が出てこないんで、こんなんで見積りを取ってくれ言うても無理でっせと。このままいくと、もうどんどん、どんどんかなり問題が出てきますよというふうなことを従前から聞いていて、大阪市の局の担当者とはそんな話もしてて、どっかで決断しないと駄目ですよという話をして。どんどん、どんどんずれ込んできて、直近、同じ彼と相談したところ、すいません、これもう一個人の話なんでね、正式なパブリックな見解とはちょっと違うということをちょっと添えておきたい、押さえておきますけれども。とにかく人が足りないんですって、もう全く人がいない。物価の上昇云々かんぬんよりも、とにかく人がいないということで、業界からしてどうなのっていうことを聞けば、正直言うと、業界としてはもう1年延期してほしいと。そのほうがしっかりと進めることができるというような発言を、ちょっとたまたま昨日聞いたところなんです。それがどうなのか、ちょっと私は分かりません。ここからウルトラCがあって、何か急速に改善に向かって進むのかもしれないけれども、現状、問題・課題が山積しておりまして、私が見ておりますと、いや大阪の責任だ、協会の責任だ、そのナショナルプロジェクトだというような感じに思っています。

私からのお願いとして、広域連合構成委員の部長の皆さんには、ぜひちょっと協力して何かできることないのかということ、ちょっと関西広域連合として、今そんな動きを取ってもらってもいいんじゃないのかなと。国やら大阪やら言ってるんじゃないなくて、大阪・関西万博で言ってんだから、何とか我々ができないことないかと模索していただくのはいかがかなと思いますが、どうでしょうか、永藤委員。

○委員長（小鍛治義広） 永藤委員。

○広域連合委員（広域産業振興副担当）（永藤英機） 昨日、報道でも出てましたが、関西広域連合としてのパビリオン起工式を行った、そして、関西広域連合の委員会においても、各府県市が連携をしながら万博を盛り上げていく。そのための催しであったり、そういうことも今、内部でも打合せをしておりますので、しっかりと関西全体で支えながら、2025年大阪・関西万博成功に向けて、一丸となって取り組みたいと考えております。

○委員長（小鍛治義広） 田辺委員。

○田辺委員 ありがとうございます。ぜひ民間の、事業者の方々が一番現実に携わっておられますので、そこしっかりと情報交換していただいて、何ができるのか。そして、何がもう無理なのか。そして、どういうふうに進めていくのか。どこで、誰が、どう決断

するのか。その辺りも含めて、ぜひともこの大阪・関西万博を成功に導いていただきたいということをお願い申し上げまして、質疑とさせていただきます。

以上です。

○委員長（小鍛治義広） それでは、他にご発言はございませんか。

北川委員。

○北川委員 お伺いします。

最初のこのページ、2ページですよ。この現状分析・将来展望で、社会構造（人口動態）と国内の動きと比較してるのがあります。世界は増えていって、日本は減って行って、今の状況というのはまさに、簡潔に言うとそういうことになるのかなど。そして、一番最後の10ページのところにイメージがあって、関西ポテンシャルマップ、ライフサイエンス、ヘルスケア、大学や各研究機関があり、それを見ながら、ちょっとぼうっと見て、さっきの海外サポートデスクの話もございましたし、この中において、産業を支える、これは2ページにあるかな、多様な人材が活躍する。こういったためには多様な人材、またそれを見て、例えば7ページの産業を支えるチャレンジ人材を引きつける、多様な価値観、生活スタイルに応じた柔軟な働き方。大学が核となり、また、その下に国内外からチャレンジ人材を引きつけというのがあります。これは、今留学されている海外からの人材というのも入ってくるのか。そういったことも踏まえて、当然これから、世界に対してこの関西のポテンシャル、出来上がったものを発信して、またそれは輸出していきたいということにも私には感じられるんですけども。こういった方々の、今留学されている方々の、また発想であり、そういう知恵とか、もしくはここにせっかく来てもらってるんですから、関西へ就職していただいて、また、新たなイニシャル、ポテンシャル、また発想を持って、新たなものが創られていくこともあるんじゃないかと思うんですが、何かそういった好循環に関することでご意見ありますか。

○委員長（小鍛治義広） 中原局長。

○広域産業振興局長（中原淳太） ありがとうございます。ご指摘の1つ核になってくる部分、端的といいますと留学生の方ということになるかと思えます。既に日本にご興味をいただいて、海外から日本に来られてるという方で、相当数の方が日本での就職、あるいは日本企業での就業というものを視野に入れてという方もいらっしゃいますのも事実です。そういった方は、きちんとチャレンジできるフィールドを提供するというのが関西の担うべき役割かと思っております。

大阪・関西に限らず、日本でという幅広に選択肢を持ってらっしゃる方もそれなりに多いと思いますので、そういった意味では、その中でも関西を選んでいただけるといったところの面白さであるとか、他にない魅力というものをどうつくっていくのかというところが、まさに課題かと思っております。そういったところ辺を実現する手だてというのを、これから皆さんと知恵を出しながら1つ1つ形にして、チャレンジ、トライしていきたいと考えています。

○委員長（小鍛治義広） よろしいですか。

それでは、他にご発言はございませんか。

小原委員。

○小原委員 京都府の小原でございます。

1点だけお伺いさせていただきます。

最後の関西ポテンシャルマップに関してなんですけれども、先ほど関西広域連合で取り組む意義というご返答もありましたけれども、とてもアナログなんですけれども、例えばライフサイエンス、ヘルスケアで、これだけの研究施設があったりとか、これは各構成府県市だけでは取り組めないことを、アナログですけども可視化してあるなどと思って、非常に面白いなどと思ってらるんですけども。これから例えばグリーンとかスタートアップとかこれから作成していかれると思うんですが、そのときには、それぞれの活躍している先進的な取組をする企業とか、そういったグループが出てくるのかなとも思うんですけども、こういったことをこのポテンシャルマップをこれから作成されるに当たって、これをどのように生かしていくか、それについてお伺いしたいと思います。

○委員長（小鍛治義広） 中原局長。

○広域産業振興局長（中原淳太） ありがとうございます。

まず、1つは、今おっしゃっていただいたように可視化をするというところが1つ大きな目的でございます。その上で共有をするということから生まれてくるものが、まずあるのではないかなというところなので、そこをきっちりしていきたいなどと思ってます。ですので、これを使って、先にあるものをイメージしながら、これをツール化するという思考でつくっているわけではございませんでして、そういった作用に使っていただけるような、効果が生むようなものにしていきたいなどと思っております。

○委員長（小鍛治義広） 小原委員。

○小原委員 ありがとうございます。まさにそれぞれの各府県市において、取組が進んでおります。そこをうまく融合できるように、まさに可視化して、共有して、前向きに取り組んでいただけるようお願い申し上げまして、質問を終わらせていただきます。

ありがとうございます。

○委員長（小鍛治義広） 他にご発言はございませんか。

黒田委員。

○黒田委員 ご説明ありがとうございました。4ページのアプローチを整理するというところで、かなりチャレンジであるとか、チャレンジできるフィールドとか、そういった文言が出てくるんですけども、チャレンジしてくれる人というのは、待っていても出てくるわけではなくて、やはりこちらから、こういったフィールドがあるとか、こういったチャレンジャーを待っているんだっていうふうに広報をしっかりとしないと、ここに書いてあるだけではなかなか、そこにチャレンジがあるんだという認識を持ってくださる方というのはすごく少ないんじゃないかなと思っていて、もちろん広報予算として、広報活動の実施ということで予算は取られてると思うんですけども、どうやってこういったチャレンジャーを集めてくるのか、もし何かお考えがあれば、ぜひ教えてください。お願いいたします。

○委員長（小鍛治義広） 中原局長。

○広域産業振興局長（中原淳太） ありがとうございます。おっしゃるとおりでございます。

1つは、既にそういったフィールドを用意しながら、いろんな仕掛けも検討しながら、取組が構成府県市単位ではいろいろとうごめきがございます。ですので、それを上手に我々広域連合でできることをお手伝いしたいなと思っております。その1つが、このビジョンであると思っております。これもまた、正直ベースの話で非常に恐縮なんですけど、このビジョンがどれだけの方に共有されてるのかという点でいきますと、正直ほとんどの方、知らないのではないかなと思っております。ですので、そういう意味できっちりここを、これも1つの方法ツールとしてこんな取組があるんだよということも、先ほどポテンシャルマップを示すということも一つそういったツールとして活用ができると思っておりますので、それは、まず広域連合としっかりしてやっていく中で、何か1つでも2つでも興味のある方とコミュニケーションができるようになればなと思っております。

○委員長（小鍛治義広） 黒田委員。

○黒田委員 ありがとうございます。ビジョンの共有というのは、多分組織の中で一番難しいところじゃないかなと思うので、ぜひ構成府県市と共にそのビジョンを共有して、関西の方たちが、こうして関西一丸となってチャレンジする人たちを応援しようとしていることを認識できるような取組をぜひ進めていただきたいと思います。

ありがとうございます。

○委員長（小鍛治義広） 他にご発言はございませんか。

松木委員。

○松木委員 ありがとうございます。奈良県議会議員の松木秀一郎です。

2ページの現状分析・将来展望のところで教えていただきたいんですが、技術革新、DX、生産性の項目で、かなりスタートアップの育成であったりとか、あるいはイノベーションによるところで、この生産性を引き上げていくという脈絡かと思うのですが、これはちょっと個人的な考えなんですけれども、企業規模が大きい会社ほど生産性が高いというのがあると思っていまして、特に関西は、中小零細の事業者が多いという傾向があると思います。そうした中で、企業規模を大きくするために、もちろん単体で大きくなるということも大事なんですけど、M&Aであったりとか、いろんな仕組みを生かすことで、関西の平均の企業規模を引き上げていくということも重要かと思うのですが、その辺りは今後、これにはあまり追い込まれてないと思うんですけれども、どのようにお考えか、お聞かせいただけますでしょうか。

○委員長（小鍛治義広） 中原局長。

○広域産業振興局長（中原淳太） ありがとうございます。おっしゃいますとおり、直接的には、そこまだ全然言及はしておりません。ですので、このチャレンジしていく取組やアイデアの中で、そういったアプローチも一つアイデアだよねというお話については、しっかりと落とし込みができればなと思っております。具体的に、企業さん同士のお話が根っこになりますので、ちょっとその手段として書き込むというのはちょっと難しい側面があるのかもしれないですけども、何かしらそういった面も生産性向上に寄与するという取組があるならば、アプローチの一つとして、選択肢の一つとして明示するというような工夫はできるかと思っておりますので、今後、検討させてください。

○委員長（小鍛治義広） 松木委員。

○松木委員　ご回答ありがとうございます。非上場企業でも今、世界的に見てみますと、ユニコーンと呼ばれるような企業のように、上場はしていないけれども大きな企業というのが新しい会社でどんどん生まれてますし、今、アメリカとか中国を見ていても、かなりここ10年、20年の間に急成長した企業というのが多いと思いますので、そういったスタートアップも、どういう規模の会社をどれぐらい生んでいくかというような目線も、今後このビジョンに反映するかどうかは別として、考えていけるといいのかなというふうに感じております。

以上です。

○委員長（小鍛治義広）　他にご発言はございませんか。

菅谷委員。

○菅谷委員　京都市の菅谷と申します。よろしくお願ひいたします。

この1枚ものの関西広域産業ビジョン改訂について、ちょっと順にご質問させていただきたいんですけど、勉強不足で①の将来像の国内シェア25%を維持ということなんですけど、現状のGRPが関西広域連合で幾つかということが1点と。

この1の25%のシェアを達成するという目標自体はいいと思うんですけども、2の将来像、目標達成に向けたアプローチというところで、急に25%のシェアを達成するためのアプローチなのにもかかわらず、この具体的な数値が一切出てこないというところが何でかいうところですね。要はアプローチってせっかく書いてくださってるんですけども、結局それが、実際何ていうんですかね、物すごくふわっとしているんで、その1を達成できるというところが全く伝わってきませんでした。

3つ目の万博インパクトを活用した成長シナリオというのは、例えば過去の万博、万国博覧会を開催した地域のGRPが、その後どのような拡大をしているかというところを、もしご存じであれば教えていただきたい。

4つ目に関しては、これ資料の作り方として、僕も関西広域連合の委員なんですけれども、この最後の、こちらの冊子の9ページだと、物すごく資料として分かりづらいと思いますので、これはどうですかね、見える化というか可視化できるような形で、やっていただけると、委員としても理解できるかなと思うので、ぜひ、ごめんなさい、いろいろ質問しましたけど、1、2、3、4のそれぞれお聞かせいただけるとありがたいです。

○委員長（小鍛治義広）　池永産業振興企画課長。

○広域産業振興局産業振興企画課長（池永裕典）　まず、1番についてお答え申し上げます。すみませんが、着座にて説明させていただきます。

関西広域産業、広域経済圏のGRPシェアですが、2020年で19.1%になっております。

それで、2つ目の質問でございますが、この国内シェア25%といいますのは、ビジョン策定当時、2012年3月ですけども、30年後の2040年度を見据えて、国内シェアを、当時も19%ぐらいだったんですけども、そこから25%に引き上げることを目標としたということで、関西広域連合がシナジー効果を最大限に発揮したら、高度経済成長期並みのシェアをさらに上回ることは可能であるという考えの下、25%に設定したものでございます。

それで、25%のアプローチでございますが、この今の骨子案では、25%に至る道筋が示されてはいないんですけども、この4ページに書いております、これが将来像の実現とそ

の数値目標の達成に向けたアプローチかなということで、まず目指す姿で新産業の創出・確立という、そのほか3つの目指す姿がございまして、これに向けて成し遂げたいチャレンジとして3つ設定しております。この取組を、これに沿って取組やることで25%達成を目指していきたいというふうに考えております。

○委員長（小鍛治義広） 菅谷委員。

○菅谷委員 今のご答弁を聞いてる限り、僕は専門家じゃないんであれなんですけども、このアプローチの積み重ねで多分25%のシェアを達成するという目標に掲げられると思うので、恐らくですけども、今聞いてる限りは難しいんじゃないかなと聞いてて思いましたので、そこはもう少しちょっと再度検証というか、していただく必要があるんじゃないかなというふうに思いました。

③、④の質問も、もしお答えをお持ちであれば。

○委員長（小鍛治義広） 池永産業振興企画課長。

○広域産業振興局産業振興企画課長（池永裕典） こちらにつきましては、今の国内シェアが19%で推移してまして、さらにコロナとか昨今の地政学リスクの高まりなど、成長に水を差す状況もあるんですけども、ただ、こうした社会情勢下で、ビジョンを果たす機能、メッセージ性というのが重要でございますので、ピンチをチャンスとする気概を持って、構成府県市とか関係団体とも協調して、共通の目標を目指して挑戦し続けていくことが必要であると認識しております。

○委員長（小鍛治義広） 中原局長。

○広域産業振興局長（中原淳太） 3点目でご質問いただきました万博、過去の万博での推移、GRPの推移ということですけども、実は同じような発想といいますか、私も関心がございましたので調べたいなと思ったんですけど、上手に追えるような資料がなかなか見つからなかったということもございまして、まだ引き続き検討中といいますか、捜索中でございます。

もう1つ、4点目の見える化のところでございますが、今回この資料で、広域連合のバリューを4つ提示させていただきましたのは、先ほど説明も、ご質問もありましたように、広域連合ですべきこと、ややもすると、これもあれもというお話になるというところも正直あるかと思えますし、実際のところ予算規模も限られてるといってございまして、いかに効率的にやっていくかというときには、やっぱりフォーカスポイントが要るだろうというところで、ポイントだけを今お示しさせてもらってるという状況でございます。ですから、おっしゃいますように、じゃあ具体的に何をすんだと。どこがこのポイントで絞り込んだ事業なのかというところは、まだ6年度の予算事業、さらにそれを見据えた万博への動きというものをどういう形でここに盛り込むかというのは次の作業と思っておりますので、その辺で、またご協議いただければと思います。よろしく申し上げます。

○委員長（小鍛治義広） 菅谷委員。

○菅谷委員 ありがとうございます。

最後に、③の過去の万博に関しては、ぜひ万博のインパクトを活用してということだけを裏づけのデータもなく書かれても、多分、何というんですかね、根拠に乏しいと思うので、ぜひそういった過去の事例も踏まえて、そういったところを示していただけるとあり

がたいです。

2番の部分に関しては、やっぱり納得はできてないんですけども、決して僕は委員の一人として何か皆さんのことを追及するつもりはなくて、この目標達成のためにどうするかってことを考えているので、ぜひ今の感じだとちょっと厳しいかなと正直思ったので、ぜひ②の部分に関しては、もう少し具体性をつけていただけるとありがたいというふうに思います。僕自身も考えますので、ぜひよろしくをお願いします。

すいません、以上です。

○委員長（小鍛治義広） 他にご発言はございませんか。

中野委員。

○中野委員 ご説明ありがとうございました。

大阪府府議会議員、中野稔子でございます。

ページ5ページのディープテックバレーKANSAIの確立というところで、もう少し概要が知りたいなと思うんですが、ちょっとざくっと書かれておりますので、何か進展とか内容があるのであれば、教えていただけますでしょうか。

○委員長（小鍛治義広） 中谷課長。

○広域産業振興局経済交流促進課長兼スタートアップ支援課長（中谷 敬） ご質問ありがとうございます。ご承知のように、関西には大学とか民間の企業とか、いわゆるライフサイエンスだけじゃなくて、物づくりをはじめとする多様な技術を含めた研究機関が多く集積します。このため、こういう大学発とか企業との連携を通じまして、そういうスタートアップ、いわゆる研究開発型のスタートアップ、ディープテックを関西の売り、ブランド化していきたいということで、関西スタートアップの目指すべき姿をディープテックバレーという形のブランド化をつくっていかうということで取り組んでいるところでございます。よろしくをお願いします。

○委員長（小鍛治義広） 中野委員。

○中野委員 ありがとうございます。多分、空飛ぶ車とか、その辺りだと思うんですけど、もう少し何かどういった形で、もう少し概要を知りたいので、また進んでいけば、教えていただければ、本日はなくて結構ですので、よろしくお願いたします。

○委員長（小鍛治義広） 中谷課長。

○広域産業振興局経済交流促進課長兼スタートアップ支援課長（中谷 敬） 承知しました。どうぞよろしくをお願いします。

○委員長（小鍛治義広） 他にご発言はございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、ご発言も尽きたようでありますので、本件につきましては、これで終わります。

それでは、暫時休憩をいたします。再開は、14時55分をお願いをいたします。

それでは休憩いたします。

（休憩）

○委員長（小鍛治義広） それでは、休憩前に引き続き、産業環境常任委員会を再開いたします。

次に、広域農林水産業振興の推進についてを議題といたします。

発言の際は、先にお名前をおっしゃってからお手元のマイクのスイッチを押して、発言されるようお願いいたします。

それでは、広域農林水産部から、広域農林水産業振興の推進について、ご説明をお願いいたします。

山本農林水産部長。

○広域産業振興局農林水産部長（山本佳之） 農林水産部長の山本でございます。

委員の皆様方には、日頃より、農林水産業の振興に格段のご理解とご指導いただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。

以降、着座にて説明させていただきます。

それでは、お手元に配付しております資料3の令和5年度広域農林水産業振興の取組についてにより、説明させていただきます。

1ページをご覧ください。

農林水産部では、2013年に策定しました関西広域農林水産業ビジョンにおいて、4つの将来像を掲げ、その実現を目指し、各府県市の取組と連携して、6つの戦略に基づく取組を実施しております。

なお、ビジョン実現に向けた役割として、広域連合は、シナジー効果の見込まれる事業や関西が一体となって取り組むべき事業について取り組み、各地域の特徴や実情を踏まえた事業については、構成府県市が実施することとしております。

それでは、6つの戦略に基づく具体的な取組を説明させていただきます。

2ページをご覧ください。

戦略1の地産地消運動の推進による域内消費拡大では、「まず、地場産・府県産、なければエリア内産」を基本に、域内の企業や学校、直売所での特産農林水産物の消費拡大を図る取組を実施しています。

1の「おいしい！KANSAI応援企業」の推進では、広域連合が取り組む地産地消運動の趣旨に賛同する企業などを「おいしい！KANSAI応援企業」として登録し、社員食堂などでエリア内の食材を使った料理の提供をお願いしています。

また、広域連合ホームページ内で登録企業の社員食堂の紹介をはじめ、社風や社員の声などを紹介するとともに、構成府県市から参加を募り、当該社員食堂において参加府県市の食材を使った料理の提供や単品の販売を行うイベントを、今年度は11月から実施する予定です。

3ページをご覧ください。

2の子ども達の特産農林水産物への理解醸成と利用促進では、JA等が他府県の小学校等に出向き、農産物を提供したり、栽培の歴史や方法等を教える出前授業を実施しています。

また、府県域を越えて、小学校等の学校給食へ特産農林水産物を提供しております。

3の直売所の交流促進では、府県域を超えた直売所間の交流イベントを実施しています。

4ページをご覧ください。

戦略2の食文化の海外発信による需要拡大では、関西の食文化のすばらしさを高品質で多様な農林水産物や加工品の情報とともに、関西の食リーフレットや広域連合ホームページを通じて海外に発信しております。

5 ページをご覧ください。

戦略3の国内外への農林水産物の販路拡大では、1の国内外への販路拡大につなげる効果的な情報発信として、構成府県市が行う香港でのプロモーションや、海外事務所等において関西の食リーフレットを配布し、情報を発信しております。

また、2の事業者向け食品輸出セミナーの開催については、昨年度は1月13日に開催し、食品輸出に携わる3名の講師から、「競争力を強化し、世界で選ばれる関西の食へ」をテーマとした講演をWeb配信にて実施いたしました。今年度は来年1月に実施する予定です。

6 ページをご覧ください。

3のWEB型マッチング商談会の開催については、来月実施する予定であり、ポストコロナにおける多様な販路の開拓を支援し、昨年度も11月に開催し、43事業者と30バイヤーの参加により、合計120件のWEB商談を実施しました。

7 ページをご覧ください。

戦略4の6次産業化や農商工連携の推進などによる競争力の強化では、広域連合ホームページやフェイスブックを活用し、1の6次産業化や農商工連携の推進として、農林漁業者が府県域を越えた商工業者と連携できるよう、構成府県市が実施している異業種交流会等に関する広報を行うとともに、2のスマート農業の推進として、スマート農業に関する展示会等の情報を発信しております。

8 ページをご覧ください。

戦略5の農林水産業を担う人材の育成・確保では、1関西広域連合農林水産就業ガイドの作成として、農業、林業、水産業の分野ごとに構成府県市の就業支援情報を掲載した就業ガイドを作成し、各構成府県市の就業相談会等で活用するとともに、広域連合ホームページ内の農林水産就業促進サイトで紹介しております。

また、2大学校ガイドの作成として、各府県の農業及び林業大学校の人材の相互受入れを進めるため、エリア内の大学校の特徴や専攻コースなどを掲載した大学校ガイドを作成し、各府県で活用いただくとともに、ホームページ等で情報発信しております。

なお、こうした就業に関する情報を広く発信するサイトとして、3農林水産就業促進サイトを運営しております。

最後に、9 ページをご覧ください。

戦略6の都市との交流による農山漁村の活性化と多面的機能の保全では、1都市農村交流サイトの運営とデジタルスタンプラリーの実施として、ホームページで、都市農村交流に関する優良事例や農家民泊などの交流施設を紹介するとともに、今年度から、新たに観光体験農園などの交流施設を対象にデジタルスタンプラリーを実施しています。

また、2都市農村交流のための人材育成として、都市農村交流アドバイザーの派遣や優良事例の紹介を行うとともに、域内の関係者のご参加をいただき、11月に京都府亀岡市において、現地検討会を実施する予定です。

説明は、以上です。ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○委員長（小鍛冶義広） ありがとうございます。

それでは、質疑に移ります。ご発言があれば、挙手願います。皆さんよろしいですか。

それでは、ご発言もないようでありますので、本件につきましては、これで終わります。

次に、関西広域農林水産業ビジョンの改訂についてを議題といたします。

それでは、関西広域農林水産業ビジョンの改訂について、広域農林水産部から説明をお願いいたします。

山本農林水産部長。

○広域産業振興局農林水産部長（山本佳之）　　続きまして、関西広域農林水産業ビジョンの改訂に係る中間案について、ご説明させていただきます。

資料4-1の1ページをご覧ください。

現行ビジョンが、2013年の策定から計画期間の10年が経過することから、これまで大学教授など6名の有識者による改訂委員会を2回開催し、ご意見・ご提言を頂くとともに、構成府縣市と調整を重ね、中間案として取りまとめたものでございます。

計画期間については、現行ビジョンでは10年間としておりますが、近年は農林水産業を取り巻く環境が短い期間で大きく変化することから、次期ビジョンでは、令和6年度からの5年程度としてございます。

ビジョンのポイントにつきましては、次の資料でご説明させていただきます。

2ページをご覧ください。

ビジョンの内容は、現状認識、将来像、戦略、構成府縣市との連携の4項目で構成しております。

まず、現状でございますが、関西の農林水産業は、歴史と伝統ある食文化とともに発展する中で、高品質で魅力的な産品を生み出し、域内消費地へ食料を供給しております。また、都市と農山漁村の距離が近い、企業や大学の研究拠点多いといった特徴も有しております。

一方で、所得の不安定化や就業者の減少・高齢化、生産基盤の弱体化など、全国と同様の課題を抱えている状況と認識しております。

また、SDGs等の持続可能性への関心の高まりやデジタル技術の進歩、海外での和食の定着と、それに伴う日本食品の海外需要の拡大など、国内外での情勢の変化への対応も必要で、対応方針としましては、関西が優位性を持つ農林水産物等の海外へのさらなる販路拡大や多様な担い手の確保、持続可能な農林水産業の推進など、これまでの取組を充実・強化していく必要があると考えております。

こうした方針の下、構成府縣市の取組と併せまして、資料の中ほどにございます、おおむね2040年度を展望した3つの将来像、1点目が、歴史と伝統ある関西の食文化を支える農林水産業、2点目が、競争力のある魅力的な農林水産業、3点目が都市と共生・交流する活力溢れる農林水産業・農山漁村を目指していきたいと考えております。

この3つの将来像を実現するために、関西広域連合では大きなシナジー効果が見込まれる資料の下段に記載の5つの戦略に取り組んでまいりたいと考えております。

戦略1 地産地消運動の推進による域内消費拡大では、引き続き、域内農林水産部の農林水産物の企業や学校での利活用、直売所間の交流促進などに取り組み、域内でのさらなる消費拡大を図ってまいります。

戦略2 国内外への農林水産物の販路拡大では、商談機会の創出や食品輸出の機運醸成に加え、大阪・関西万博を契機としたPR等に取り組み、さらなる販路拡大を図ります。

戦略3 農林水産業の競争力強化では、異業種や異分野との連携促進による新たな商品づくり、スマート農業の推進等に取り組み、産業としての競争力強化を進めてまいります。

戦略4 農林水産業を担う人材の育成・確保では、引き続き、就業支援情報の発信や農業大学校、林業大学校における越境の入学者の受入れ促進を図ってまいります。

戦略5 都市との交流による農山漁村の活性化では、農山漁村の持つ豊かな地域資源のSNS等を活用した魅力発信や大阪・関西万博を契機としたPR等に取り組み、交流人口の増加と農山漁村の活性化を図ってまいります。

これらは現行ビジョンの6つの戦略について、新規性・継続性を考慮し、再編したもので、地産地消の推進や販路拡大、競争力の強化など、産業としての魅力を向上させる取組と、担い手の確保や農山漁村の活性化など、次世代へ継承していく取組としております。

なお、農林水産業の発展は、地域間競争と地域間協力の両面が重要でございますので、次期ビジョンにつきましても、構成府県市の施策と連携しながら進めてまいりたいと考えております。

最後にもう一度、資料1ページの2をご覧ください。

今後のスケジュールでございますが、本日のご審議の後にパブリックコメントを行いまして、1月の関西広域連合委員会で最終案を取りまとめ、関西広域連合議会3月定例会へ上程させていただきたいと考えております。

説明は、以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長（小鍛冶義広） ありがとうございます。

それでは、質疑に移ります。ご発言があれば、挙手願います。

小原委員。

○小原委員 説明ありがとうございます。座ったままで失礼いたします。

この関西広域連合として取り組むというところで、シナジー効果として一体的にできることってというような中で、このように取りまとめをしていただいていると思います。そういった中で、ちょっと大括りの話になるんですけども、この社会経済情勢の変化を踏まえてとありますけれども、まさに様々な分析をしていただいて、課題も抽出をしていただいております。

一方で、来年度は国のほうも農政の転換という形で、法改正をする予定で、キーワードは食料安全保障というところがあると思います。

さらに、本当にこの時代は不測の事態がいつ何どき起こるか分からないという中で、自給率の向上、こういったところも大きなテーマになるんじゃないかなと思うんですけども、そういった本当に危機感といいますか、例えば私も地元が京都府の舞鶴市なんですけれども、やっぱり漁業を、今まで九州方面にいたサワラという魚が、舞鶴では一番今、捕れるようになっている。本当にどんどん、どんどん北上してきていると。いつかは食卓で当たり前に食べれた魚が、この温暖化で食べれなくなるかもしれないことも予想される。そういった危機感も含めて、そういったところのニュアンスがもっと入り込むような改訂が必要じゃないかなということが1点。

あと、パブリックコメントで、今後実施されるということですけども、やっぱり人材確保、担い手の確保という中で、これもなかなか自分の感覚とは最近変わってきてるなと思

うことが、例えば漁業が若い人に大人気です。結構京都府でも、インターンシップにしても大好評で、たくさん応募があったり、そして、例えばもうやっぱり働き方が変わってきてますので、例えば朝早くから仕事、漁業をして、お昼過ぎには終わってる。その後、サーフィンをする。そういった本当に職業と趣味と、そして本当に生き方、ライフスタイルというものも変わってきてるので、人材確保、若い人をターゲットにするのであれば、やっぱり若い人の意見もしっかりと聞いていく仕組みが必要ではないかなと思っております。パブリックコメント絶対若い人はしないと思うので、その辺りも含めて工夫をしていただけたらと思いますけれども、その点について、よろしく願いいたします。

○委員長（小鍛治義広） 川尾課長。

○広域産業振興局農林水産部総務企画課長（川尾尚史） ご質問ありがとうございます。

1点目の、さらに踏み込んだ分析からビジョンにおいても、もう少し突っ込んだ内容が必要ではないかという点に関しましては、委員おっしゃるように、国のほうでも食料・農業・農村基本法の見直し作業が進んでございまして、委員、先ほどおっしゃったように、食料安保の問題でありますとか、多様な担い手の問題とか、あるいはスマート農林水産業の推進であるとか、そういうふうないろんな課題に対して議論が進められておりますし、私ども関西エリアにおきましても、同様な課題を多く抱えているというふうには認識してございます。

その中で、先ほど部長の説明にもございましたけども、各構成府県市さん、こちらのほうでもかなり突っ込んだ施策というのもやっていただいておりますので、そうした各構成府県市さんの施策の状況とかというの、今後、勘案させていただいて、さらにこのビジョン、突っ込んだものにできるかどうかというのを検討させていただきたいなというふうに考えてございます。

それから、2点目の担い手の話でございます。

先ほどの話と少しかぶるところあるんですけども、国のほうも多様な担い手ということで、これまでは大規模農家といいますか、非常に生産規模の大きな農家に集中的に施策を投じてきたというふうな部分があるかと思っております。そうした中で、先ほど委員おっしゃったように、食料安保の問題もございまして、いわゆる食料生産をする担い手といいますか、人がだんだん、だんだん不足している。そうした中で、もちろん若い方に農林水産業の世界に入ってきていただくことが最も重要だというふうに我々も考えてございまして、そうした方々に魅力を発信していきたいなということも、いろいろ常々考えておりますので、様々な機会を捉えて、それは発信して、続けていきたいなというふうに思っております。

それとともに、新聞等でご承知かと思っておりますけども、農業に限らず、今どの産業でも生産年齢人口が減ってきてるということで、いわゆる人材の取り合いになっているというふうに私どもは考えてございます。そうした中で、農林水産業というのは、いわゆる少しお年を召した方でも十分に担い手としてやっていただける分野の職業ではないかなと。具体的に言いますと、これまでは、例えば企業を60歳で定年された方が、定年就農という格好で地元に戻ってこられて、地元で農林水産業に携わっていただいたり、あるいは地元の、いわゆる区長さんのような役をやっていただきながら、地元の担い手として頑張っ

いただいてたというところが非常に多かったんですけども、企業様のほうも定年延長等が始まりまして、地元へ帰ってくる、本来だったら地元へ帰ってくる年代の方が、なかなか地元へ帰ってこないとか、今度はまた70歳まで雇用の義務というふうなこともございますので、こうした少し年齢の高い方、こうした方々も農村地域、農村漁村の地域へ早めに帰ってもらえるような、こうしたアプローチも併せてやっていきたいなというふうに考えてございます。

以上です。

○委員長（小鍛治義広） 小原委員。

○小原委員 どうもありがとうございます。まさに若者から、人生100年時代ですので様々な世代も含めて、さらにはライフスタイルとしては、また二地域居住であったりとか副業とか、そういったものもだんだんとやっぱり変わってきてると思いますので、そこも入れ込んでいただきたいと思いますし、やはり関西広域連合としてできることというのは、例えば人材の取り合いというようにならないように、一方で、今取り組んでいただいているように不景気を超えた人材受入れの推進であったりとか、お互いの紹介をし合って、マッチングをして、より本当にシナジー効果というような形で、パイの取り合いではなく、お互いが上がっていくような取組にさせていただけたらと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

ありがとうございます。

○委員長（小鍛治義広） 他に、ご発言はございませんか。

内田委員。

○内田委員 鳥取の内田です。

さっと見させていただきましたが、少し林業のことがあまりないようですので、今日の議員の中で皆さん、森林林業活性化議員連盟、かなりいらっしゃると思いますので、私のほうから一言申し上げたいと思います。

やはり林業というのは、ICTで今一番いろいろやっていただいて、CO₂の固形化ということが一番問題になってますので、そこが一番進んでるのが林業なんです。今回もちょっといろんな面で、外国を見てもやはりCLTを使った高層ビルがばんばん建ってますし、東京も、この頃少しメインのところに建ちつつあります。やはり将来的に見るとすればですよ、そういうことを書き入れておいたほうがいいんじゃないかという具合に思っております。できたら、今回の関西万博にも、CLTとかLVLとか、こういうものを使いながら、先端的な形をつくっていただければ、大変ありがたいなということを申し上げておきます。

以上。

○委員長（小鍛治義広） 何かご答弁ございますか。

川尾総務企画課長。

○広域産業振興局農林水産部総務企画課長（川尾尚史） ご意見どうもありがとうございます。

委員おっしゃるように、森林環境譲与税の問題も今、国のほうで議論していただいているところで、何とか森林の多い地域に譲与税を多く持ってきてほしいなというふうなことも議論していただいている部分もございますし、森林クレジットとか、多様な、いわゆる森林

の持つ多面的機能とか、いろいろカーボンニュートラルも含めて、森林の持つ重要性というのは、ますます高まっているのかなというように思っております。

ただ一方で、森林といいますか、林業におきましても、産地間の競争といいますか、そういう部分もあるかと思っております。ですので、そうした部分については、一度、構成府県市さんのほうとも相談をさせていただきながら、ビジョンの中にどういうふうに書き込んでいくかというのをまた検討させていただけたらなと思っております。

以上です。

○委員長（小鍛治義広） それでは、吉岡委員。

○吉岡委員 兵庫県議会、吉岡たけしでございます。どうかよろしくお願いたします。

まず、農林水産業の中の水産業、このことで一言申し上げたいと存じます。

ご存じのとおり、栽培漁業というので、この文書にも5ページ、6ページあたりに載っておりますが、兵庫県はノリの養殖、有明と並びまして全国の主要産地でございますが、そういう養殖、瀬戸内で関西広域入ってらっしゃるところが少ないですから、養殖漁業というのは少のうございます。鳥取のほうはカニ、そしてまた、京都府さんのほうもカニ、EU型の漁業を目指されるというすばらしい将来についても、小原委員も今語られましたけれども、ご存じ、瀬戸内は有名な、どこそこの何々という魚種と特定産地が言われてる割には、今非常に漁業資源が少なくなっている。ここで書かれておりますけれども、「水産資源の減少に加え」と5ページの最後の文言でございます。これが、実は関西広域でしか解決ができない問題点を抱えております。今、今日この場でつまびらかに全部言っていきますと大変な時間を多分取ってしまいますので、次、11月の本会議とかで15分、10分ですか頂いて、フルにそれに費やそうと思っておりますけれども。

かつては、3.11を思い起こしていただきたいと思えます。それ以前、「森がカキを育てる」、東北のほうでは、カキの養殖をしておりました。カキの実を太らせるにはどうするのか。それは森を整備するんだ。その森からの栄養が、川を伝わって結局、海の栄養につながっていく。栄養塩が入っていくという流れでございました。

では、皆さん考えてください。

関西、琵琶湖からの水、三重県から滋賀県、そして京都府、大阪府と伝わりまして淀川水系、そしてまた大和川、奈良県、大阪府と流れて入ってきますが、これは下水になってございます。そして、下水が4割、工場排水が3割、ほかというふうになっておるんですけども、我々行政のほうの手を使って栄養塩の管理、水質管理が施せるのは、その下水の部分なんです。

そこで、関西広域で、関西の大阪府、京都府、滋賀県さん、全部、我が兵庫県も含めまして、しっかり下水を管理して、栄養塩類を出して、要は窒素の濃度等々を水質の保全も図りながら、きちっと最適値に持っていくと、かつての水産資源に戻るという今知見が、要は科学的エビデンスが得られておりますので、私、兵庫県議会でも水産議連の仲間と一緒に大々的に取り上げております。その辺のところをぜひともこういうビジョンにでも、どこかに書き込んでいきたい。農林水産業の競争力強化、そのとおりなんです、水産だけは皆さん、これは何千年前と同じです。要は漁猟、狩猟と一緒に捕ってくるしかないという産業でございますので、そこの部分しっかり書き込んでいただければと思います。

あと、もう長くなりますのでやめますが、鳥取県、滋賀県さんと同じく、我が県は、黒毛和牛、畜産業も抱えておりますし、今、餌代の高騰で非常に苦しんでおります酪農業も抱えてございます。そうした点も広域で対処できるところは、一緒に広域でやっていただきたいなど。その辺は、やはりビジョン委員の皆さんを見てたら偏っております、いわゆる都市農業とか農業は見てらっしゃるけれども、水産業や畜産業、酪農業、そして今、鳥取のほうのご指摘があった林業の専門家が1名も入っていない。この委員の在り方では、農林水産業は語れないなと思っております。答弁しにくいことを申し上げて恐縮ですが、この耳に痛いこと、本当に大切だと思いますので、どうか皆様方に一度、我がこととして考えていただいて、また、当局の皆さんにも何とか前へ転がしていけるようにお考えを及ばせていただければと思いますので、答弁難しければ結構ですし、方向性の思いだけでも語っていただけるなら、それはそれで幸いです。

以上でございます。

○委員長（小鍛治義広）　　ご答弁いただけますでしょうか。

川尾総務企画課長。

○広域産業振興局農林水産部総務企画課長（川尾尚史）　　ご質問どうもありがとうございます。

先ほどと林業と同じような話になって恐縮なんですけども、水産業につきましても委員おっしゃるように、中身が少しボリュームが足りない、中身を踏み込んでないのではないかということにつきましては、構成府県市の皆様方とちょっとご相談をさせていただきたいというふうに思います。よろしくをお願いします。

○委員長（小鍛治義広）　　吉岡委員。

○吉岡委員　　今の答弁を信じますので、ぜひ前へ転がしてください。よろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長（小鍛治義広）　　それでは、他にご発言はございませんか。

それでは、ご発言も尽きたようでありますので、本件につきましては、これで終わります。

以上で、本日の議題は終了いたしました。この際、他にご発言等ございませんでしょうか。

九里委員。

○九里委員　　ありがとうございます。久しぶりに、この関西広域連合の委員にならせていただきまして、今日こうやってそれぞれ話聞かせていただいたんですが、以前にもちょっとテーマになっていたんですが、今日、産業振興の推進なりビジョン、あるいは農林水産業の振興なり、いろいろあったんですが、一応、先般も6月臨時会等で着物の話が出たんですが、今日のこの資料をずっと拝見させていただいてまして、特に今の農林水産業は比較的ましなんですけど、先ほどの産業振興の部分で、今よく言われてます、日本語が荒れているというか、英語化なり片仮名語なり、あるいは様々な短くした言葉いうところもありますし、非常に我々、政治につかさどるもんとか行政の方々は、一定もう慣れておられる、こういう文章に慣れてると思うんですが、国民目線、あるいは一般の方々に資料を見せた

とき、あるいは見てもうたときに、これだけ片仮名なり英語化なり、あるいは短縮化した、当たり前、例えばDXしかりSNSしかり、当たり前やって我々が思っていることが、非常に何やねんという、まだまだ伝わってへんと思います。特に今日の前段の部分では、そういう文章が多いなということを感じまして、以前にここに寄せてもうたとき以上にそういう文章が、特にビジョンで多いなということを感じさせてもらいましたので、また、ぜひここは本部の事務局になるのか、全体の事務方になるのか分かりませんが、それぞれこれ構成府県市によって、そういう実情はいろいろ議会側もあると思うんですが、ぜひ少し日本語というか分かりやすく、一般的に通じるものに再度、原点に戻るような形で、戻していただける部分は戻していただけるということができたらなと思いますので、もし何かあれば。私はそう感じます。

○委員長（小鍛治義広） 土井本部事務局長。

○本部事務局長（土井 典） 九里委員ありがとうございます。こんなこと言うのも変ですけども、私も最近、日本語分かりづらさとか、そういった文章が役所、私ども広域連合に限らず増えてきているのかなというようにも感じております。当然、私ども広域連合も含めて、作る文書、構成府県市の住民の皆さん、あるいはそれぞれ構成府県市におかれては、その府県あるいは市の皆さんが、きちっと分かっていたけるようなものでなくてはならないと思いますので、ただ、専門用語とか、少し日本語に、例えば直しづらいものだとか、制約はあると思うんですけども、きちっと皆さんに分かっていたけるような、そういったことにきちっと意を置いて、今後いろんな文書の作成、あるいはビジョンの文章の検討も含めてできるように、また広域連合内で共有いたしまして、検討できるようにしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○委員長（小鍛治義広） 以上で、産業環境常任委員会を閉会をしたいと思います。

本日は、どうも皆様、ありがとうございました。

午後 3 時 29 分閉会

関西広域連合議会委員会条例（平成23年関西広
域連合条例第14号）第28条第1項の規定により、
ここに署名する。

令和5年11月16日

産業環境常任委員会委員長 小鍛治 義広